

期 末 試 験 解 答 ・ 解 説

授業科目名	法理学	2020 年度 : 後期	
		定期試験期間内	
担当教員名	足立英彦	試験日・時間	2 月 9 日 (火)
			10 : 30 ~ 12 : 00

1. 次の推論は論理的に正しいか (妥当か)。真理表を使って説明しなさい。(各 5 点)

(a) $\neg A$ ゆえに $A \rightarrow B$

解答

A	B	$\neg A$	$A \rightarrow B$
1	1	0	1
1	0	0	0
0	1	1	1
0	0	1	1

前提が真である 3, 4 行目において結論も真になっている。したがって、この推論は論理的に正しい。

解説 前提がすべて真 (この問の場合は前提は 1 つだけなので、前提が真) の場合が何行目であるかを明示すること。真理表のみ正しく書けている場合は 2 点。

(b) $A \rightarrow B, B$ ゆえに A

解答

A	B	$A \rightarrow B$	B	A
1	1	1	1	1
1	0	0	0	1
0	1	1	1	0
0	0	1	0	0

前提がすべて真であるのは 1, 3 行目である。このうち 3 行目で結論が偽になっている。すなわち、前提がすべて真で結論が偽となる反例があるので、この推論は論理的に正しくない。

解説 前提がすべて真で結論が偽の場合が何行目であるかを明示すること。

2. 世界 w において $\Box A$ と $\Diamond A$ が真であるとする。次の問に答えなさい。(各 1 点)

(a) $\Box A$ と $\Diamond A$ を、それぞれ様相を用いずに言い換えなさい。

解答

$\Box A$: 「 w から到達可能なすべての可能世界で A が真」

$\Diamond A$: 「 w から到達可能な少なくとも 1 つの可能世界で A が真」

(b) 世界 w において $\Box A \vdash \Diamond A$ が成り立つ場合、世界 w はどのような特徴を有しているか。

解答 w は、 w から到達可能な可能世界が少なくとも 1 つは存在するという特徴を有する。

解説 w から到達可能な世界が 1 つもなければ、 $\Box A$ は常に真となり ($\Box A$ と $\neg\Diamond\neg A$ は同値。到達可能な世界がなければ、 $\neg A$ が真の世界もない)、また $\Diamond A$ は常に偽となる (到達可能な世界がなければ、 A が真になる世界もない) ので、 $\Box A \models \Diamond A$ は成り立たない。

- (c) 世界 w において $\Box A \models A$ が成り立たない場合、世界 w はどのような特徴を有しているか。

解答 w は、 w 自身に到達できないという特徴を有する。

解説 理想世界のみを考え、 w から到達可能な理想世界はあるが、その理想世界は w 自身でない (つまり、 w には到達不可能な) 場合、 w における様相 (\Box, \Diamond) は義務様相 (O, P) である。

3. a が b に対して G という行為について自由である場合、

- (a) b はどのような規範的地位にあるか。文と記号で書け。(2 点)

解答 b は a に対して、 G をすることを求める権利を有さず、かつ、 G をしないことを求める権利も有さない。 $\neg RbaG \wedge \neg Rba\neg G$

解説 両方を意味する「かつ」またはそれと類似の表現を必ず入れること。

- (b) 「 b は a に対して G をすることを求める権利を有する」という命題の真理値は何か。(1 点)

解答 偽

解説 $\neg RbaG \wedge \neg Rba\neg G$ と $RbaG$ は「反対」の関係にあるので、一方 (a) が真なら他方 (b) は偽。

4. 法的推論について、次の問に答えなさい。(各 3 点)

- (a) 法的推論のもっとも単純な形式である法的三段論法 (法規範の解釈が不要なもの) を、論理式を使って表しなさい。

解答

1. $O\forall x(Tx \rightarrow Vx)$

2. $\Box Ta$

3. OVa 1, 2 より

解説 この解答はこの授業内での仮説です。反論を歓迎します。

- (b) 上記の推論形式が論理的に正しいことを、「可能世界」「理想世界」という語を使いつつ説明しなさい。

解答 この世界で $O\forall x(Tx \rightarrow Vx)$ が真であれば、この世界にとってのすべての理想世界で $\forall x(Tx \rightarrow Vx)$ が真、したがって $Ta \rightarrow Va$ も真。また、この世界で $\Box Ta$ が真であれば、この世界にとってのすべての可能世界で Ta が真。理想世界は可能世界の一部なので、すべての理想世界でも Ta は真。つまりすべての理想世界で $Ta \rightarrow Va$ と Ta が真なので、肯定式 (modus ponens) により Va も真。すべての理想世界で Va が真なら、この世界で OVa が真。

解説 「 $\forall x(Tx \rightarrow Vx)$ が真なら $Ta \rightarrow Va$ も真」という趣旨が書けていなければ 1 点減。第 1 章第 2 節 3 「真理値について」、第 2 章第 2 節 2(2) 「条件つき規範」、第 5 章第 1 節 2(2) 「法的三段論法」の理解を問う問題でした。

5. 次の選択肢から、誤まっているものを 1 つ選べ。(3 点)

- (a) 分子命題の真理値は、その分子命題を構成する原子命題の真理値が決まれば決まる。
- (b) $\neg A$ は、 A が真であるとき、またそのときにのみ偽である。
- (c) $A \vee B$ は、 A, B のすべてが真であるとき、またそのときにのみ、真である。
- (d) $A \vee B$ と $A \leftrightarrow B$ は互いに否定の関係にある。

解答 (c)

解説 $A \vee B$ は、 A, B のすべてが偽でないとき、またその時にのみ真。

6. 次の選択肢から、正しいものを1つ選べ。(3点)

- (a) 矛盾集合からは何も出てこない。
- (b) 整合的な集合からは何でも出てくる。
- (c) 「 A ならば B 」という命題が恒真式(トートロジー)であるならば、「 A ゆえに B 」という推論は論理的に正しい。
- (d) 原子式の真理値の組み合わせにかかわらず常に偽となる式を事実式という。

解答 (d)

解説 常に偽となる式は矛盾式。

7. 次の選択肢から、誤っているものを1つ選べ。(3点)

- (a) 規範を定める能力を権限という。
- (b) b が a に対して自らの地位の変更に従う責務を負っているとき、 a は b に対して b の地位を変更する権利を有する。
- (c) 他国の支配に服さないという意味での国家主権は「無服従(無責務)」を意味する。
- (d) 奴隷は主人に服従している。

解答 (b)

解説 権利ではなく権限。

8. 次の選択肢から、誤っているものを1つ選べ。(3点)

- (a) 授權規範には、規範を創造する権限を授けるものと、既存の規範の解釈の権限だけを授けるものがある。
- (b) 授權規範には、授ける権限の行使を義務づけるものと、行使を義務づけないがそれを許可するものがある。
- (c) 自分を名宛人とする規範を定める権限が道徳的ならば、他者を名宛人とする規範を定める権限は非道徳的である。
- (d) ケルゼン(H. Kelsen)は、歴史上最初の憲法制定者に憲法制定権限を与える規範を一般規範と呼んだ。

解答 (d)

解説 一般規範ではなく根本規範。

9. 次の選択肢から、誤まっているものを1つ選べ。(3点)

- (a) 授權規範は規範を定める行為を構成する。したがって、授權規範がなければ規範を定める行為は存在しない。

- (b) 規範を定める行為を制度的行為と呼び、制度的行為によって定められた規範の集合を制度と呼ぶ。
- (c) 日本国憲法 29 条 1 項の「財産権」は、私法上の財産権（債権と物権）だけを保障していると解することもできるが、私人の行為能力をも保障していると解することもできる。
- (d) 客観的制度的保障論によれば、国民の制度的行為を保障する国会の義務に対応する国民の権利が認められる。

解答 (d)

解説 国民の権利を認めるのは主観的制度的保障論。

10. 次の選択肢から、誤っているものを 1 つ選べ。(3 点)

- (a) 「解釈」とは、個別的な規範的判断（個別規範）を論理的に推論（演繹）するために必要な前提を追加し、それを論証することである。
- (b) すべての人が語の用法 W に同意するならば、W が真であることは必然的であると考えべきである。
- (c) 誰も W に同意しないならば、W が真であることは不可能だと考えるべきである。
- (d) ある言葉について、一般人の用法と専門家の用法が異なる場合、専門家の用法を優先すべきである。

解答 (d)

解説 一概には言えないが、原則としては、一般人に理解されるべき法規範の場合は一般人の言葉の用法を優先すべきであり、特定の人々が理解できればよい法規範の場合は、その特定の人々内で共有されている用法を優先すべき。

11. 私人の権限と国会の権限の共通点について説明しなさい。(10 点)

解答 私人の権限と国会の権限は、公序良俗又は憲法に反する内容を定めてはならないという制限はあるものの、いずれも規範を創造する権限であるという共通点がある。私人が契約という名の個別規範を創造できるのは、その規範によって義務づけられる相手方がその規範の内容に対して直接の同意をしているからである。同様に国会が法律という名の一般規範を創造できるのは、その規範によって義務づけられる国民の相対的多数が、その規範の内容に対して、議員を選ぶという行為を通して間接的に同意しているからである。

12. 法解釈において、語の実際の用法を尊重しなければならないのはなぜか。(10 点)

解答 語は立法者が「述べたこと」であり、それに従うことは、立法者の意思を尊重すること、すなわち民主主義を尊重するということを意味するので重要である。また、語の用法に基づく論証は、言葉の実際の用法という、変化しにくい事実を論拠としている。そのため、語の用法に基づく論証を重視することは、法解釈の安定性を、したがって法的安定性を増す効果がある。なお、法的安定性は、つぎの二つの目的のために重要である。第一に、「等しき者を等しく扱う」ために、すなわち平等原則を実現するために重要である。法規範の解釈が、解釈する人や時によって異なると、同様の者に対してその法規範が適用されたり適用されなかったりすることになり、平等原則に反することになる。第二に、予測可能性を確保することによって、我々の自由（作為・不作為の許可）の領域を確保するためにも重要である。もし、これまでの裁判官の法解釈が不安定で、したがって将来の裁判官の法解釈を予測できないならば、どのような行為が法的に命令されたり禁止されているのかが分からなくなり、我々の自由の範囲も不明確になってしまう。

解説「民主主義の尊重」に3点、「法的安定性の重要性」に5点、法的安定性が重要である理由としての「平等原則」と「自由」の指摘に各1点。

13. 次の問に答えなさい。

(a) 超法律的法形成とは何か。(4点)

解答 超法律的法形成とは、制定法の文言の可能な意味内容を超えるが、それと両立する法規範を形成することである。法に欠缺がある場合に行われる。

(b) なぜ裁判官は超法律的法形成をしなければならないのか。(6点)

解答 第一に、私法の領域において法の欠缺は不可避である。第二に、裁判官には裁判をする義務がある。法に欠缺がある場合でも、裁判官はそれを理由として裁判をする義務から逃れられない。第三に、裁判官の下す個別規範が正当であるといえるためには、それが条件つき一般規範を含む前提から論理的に導けることを、したがって平等原則を満たしていること示さなければならない。以上の三つの条件の下では、法に欠缺があり、したがって、条件つき一般規範を法源から導けない場合に、裁判官に残されている唯一の選択肢は、自分でその規範を作ること、すなわち超法律的法形成をすることだけである。

解説 私法において法の欠缺が不可避であること、裁判官には裁判をする義務があること、裁判官は条件つき一般規範に従って判断をしなければならないこと、の指摘に各2点。

14. 講義に対する感想や意見（コロナ禍での講義の方法について、講義の中で興味を持てた点、最後まで理解できなかった点の指摘など）があれば、答案用紙に記入してください。（任意。採点には一切影響しません。）

回答 可能世界や理想世界の考え方が難しかったというご指摘をいただきました。問2の(b)(c)の正解者が少なかったことも踏まえると、もう少し時間をかけて丁寧に説明すべきだったと反省しています。来年度の授業では、すべての履修者に理解していただけるよう努力します。

参考情報（2021年2月13日現在）

● 定期試験結果

履修登録数	定期試験受験者数	放棄	定期試験平均点	総合平均点
18	15	3	49.7	71.3

定期試験上位得点者: 66点1名

● 総合評価

S(100-90)	A(89-80)	B(79-70)	C(69-60)	不可	放棄
2	1	6	4	2	3

総合上位得点者: 94点1名